

東日本大震災
オーストラリアで
リスクマネジメントを考える

被災地から届いた声

今回の大震災では、13,000 人超の死亡者、14,000 人超の行方不明者（4 月 11 日現在）の方々がいらっしゃいます。最初の地震から 1 ヶ月が過ぎても余震は頻発し、津波や原発の心配も尽きません。甚大な被害を受けた各被災地の中から、宮城県仙台市、名取市の方々から当時の様子を伺うことができました。



河北新報
2011 年 3 月 12 日
(仙台市に本社をもつ河北新報社が
発行する日刊新聞)



2011 年 3 月 14 日



2011 年 3 月 13 日

■仙台市太白区

36 歳 女性

農家の前を自転車で通っていた時に、ゴーゴーと地響きのようなものがして立ってられないぐらい揺れました。自転車を投げ置き、近くにいた見ず知らずのおばさんと「こっちの何も無い所へ」と言って一緒に逃げ、揺れがおさまるとすぐに娘たちを迎えに走りました。

36 歳 男性

工作中、パソコンに向かってしていると、横揺れが始まり、携帯電話の緊急地震速報の警告音が鳴りました。同時に激しい揺れとなりオフィス内のロッカーなどが、ガシャンガシャンと音を立てて倒れ、すぐに停電となりました。自宅に一人で居る娘が心配になり、すぐに家に電話をしてみました。すでに不通。妻の携帯電話に連絡をしようと試みましたが電話もメールも全く繋がらない状態となっていました。

10 歳 姉妹（姉）

学校で授業を受けている時に大きな揺れの地震が起きました。すごく怖くて、すぐに机の下に逃げました。揺れが収まってから校庭に避難すると、泣いている生徒もいました。

8 歳 姉妹（妹）

インフルエンザの学級閉鎖で家に一人でした。壁際に張りついて揺れがおさまってから、避難しなきゃと外に出たところで、慌てて帰ってきたお母さんに会いました。

29 歳 男性

地震発生後の午後 4 時頃、会社から車で帰宅中に、車に設置してあるテレビで仙台空港に津波が押し寄せてくる映像を見て鳥肌が立ちました。同じ頃に、車で橋を渡ろうとした瞬間、海側から茶色い濁流がすごい勢いで逆流してくるのを目撃し、急いで橋を渡りました。

53 歳 女性

買い物のためにスーパーの中に入った時、地震が発生しました。急いで外に出ましたが、その後地震がすぐに止んだので、大丈夫かなと思ったんです。しかし次の瞬間、今まで体験したことのない非常に大きな揺れを感じ、立ってられず、地面に這いつくばるようにして耐えました。周りからは大きな悲鳴がたくさん聞こえました。地震は 5 分以上続いたと思います。

68 歳 男性

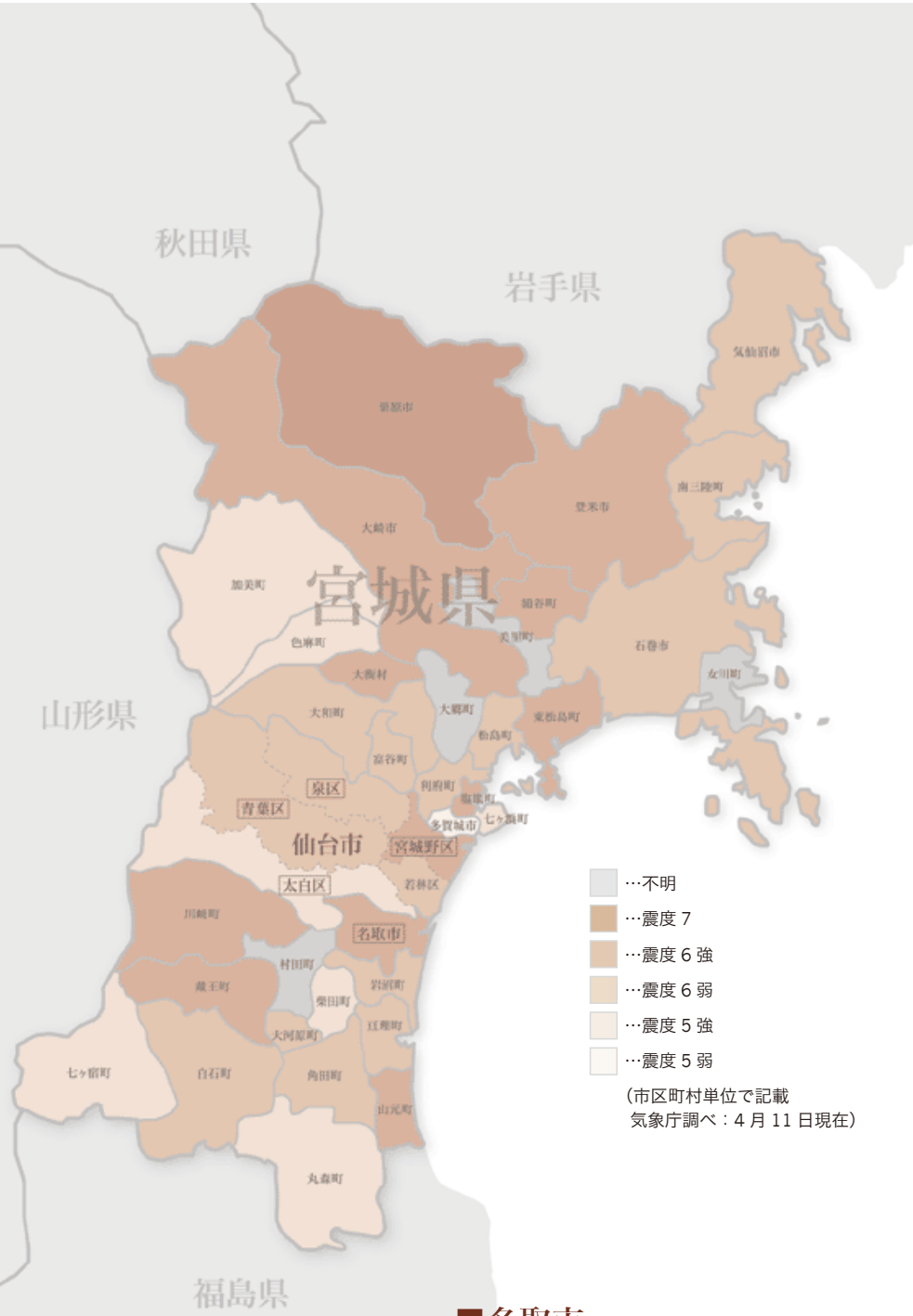
市民センターで囲碁を打っている時に地震を体験しました。部屋にいた人は、テーブルにしがみつく人、下に潜る人、壁側に身を寄せる人、と各々とっさに身を守る姿勢をとっていました。

57 歳 男性

自分たちを含め、誰もが食料を始めとする生活物資の調達に不安があるのだろうと感じました。営業するかどうか分からないスーパーに何百人という人が並ぶんです。ある朝 8 時にスーパーに行った時は、すでに 300 名以上が列を作っていました。係員の人がこれ以上並んでも何も買えないということを伝えても、たくさんの人が並び続けていました。

65 歳 女性

地震直後から水道、電気、ガス、電話が全てストップ。家族の安否を確認するためにも、携帯電話の充電が心配だったので買いに行くと自動車用充電器を購入できました。翌日から新聞が配達され、貴重な情報収集に大変役に立ち、有り難かったです。ガソリンは、何度か何時間並びましたが買えず、2 週間後に早朝 3 時から並んでようやく車に入れることができました。



■名取市

26 歳 女性

名取市は、津波の影響から海側で壊滅的な被害を受けており、また余震も頻発しているため、近所の方によっては家の中にいることができず、広い場所に出て、ラジオで情報確認をしたり、周りの人たちの安否確認をしたりしていました。我が家では日頃から物資の備蓄をしていたため、その点は幸運でした。

東日本大震災
オーストラリアで
リスクマネジメントを考える

■仙台市泉区

38 歳 女性

仕事中に、これまで体験したことのない揺れを感じ、しゃがみこみました。地震の詳細が分かったのは、発生から 5 ～ 6 時間後で、その後 1 時間くらいして始めて家族の無事が確認できました。私の住む仙台市泉区では、水道は 2 日後、電気は 3 日後、ガスは 2 週間後に復旧しました。

38 歳 女性

幼稚園送迎バスのお迎えに行ったところ、揺れが始まり、同じマンションに住む子どもを預かっていたので 2 人を抱きしめて踏ん張っていました。子どもたちを抱きかかえられず戸惑っていると、避難で出てきた人が子どもを 1 人抱えてくれて安全なところに避難しました。電気、水道、ガス停止の他、排泄のストレス、子どもの清潔保持の問題も心配でしたが、何よりもロウソクで照らされた範囲だけしか見えない不安と、それによる強いストレスを感じました。

■仙台市宮城野区

26 歳 女性

またこのような大災害が起こるのではないかと、という不安がいつもつきまといます。町が復旧する様子を見ても、いつか壊れるのではないかと思ってしまうたり、まだまだ日常に戻れない人たちがいる中で、普通の生活に戻っていくことへの、言葉では表すことのできない申し訳なさを感じています。

■仙台市青葉区

26 歳 女性

私は看護師として働いているのですが、同僚や患者さんを含め、現実を受け入れられないという人が多かったと思います。その後、食料が手に入らず、自分たちは皆で持ち寄ったお菓子を食べて飢えを凌ぎ、患者さんへの食事は非常食で、本当に貧しく、暴動寸前の状態になることもありました。